

幸福の谷

ニュースレター

第5版

特集号

コミュニティ・エンゲージメント・センター・スタディツアー





SJIプログラムの目的と概要

このプロジェクトには、シェラブツェ・カレッジの学生や役員、バルツァムの農家が招待されました。11月5日から7日まで、サムドゥブ・ジョンカルのデワタンへの3日間の研修旅行プログラムを開催しました。訪問先は、Samdrup Jongkhar Initiative (SJI) が、周辺の自然環境と共生する農村コミュニティの社会経済的発展を目指すプロジェクトを実施しているフィールドでした。

ツアーの参加者は、Sherubtse Organic Farming Society から2名、Sherubtse Entrepreneurship Club から6名、大学のインキュベーションセンターから2名の職員、および Bartsham Happy Farmers Group から5名のメンバーで構成されていました。ツアーの目的は、有機農業だけでなく農家の生き方を学び、村に戻ってから実生活でGNHを達成するための実践方法を検討することでした。

SJIを訪れた理由

GNH-Community Engagement Center は、この JICA 草の根プロジェクトを通じて、地方におけるGNH 価値の可視化を試みています。実際のGNHの実施に関しては、SJI は国内で最前線で活動している組織の1つです。SJI は次のようなビジョンを設定しました。

「真の国民総幸福に基づく開発とブータンとそれ以降のモデルとして、サムドゥブ・ジョンカルでそれを達成するために必要な知識、原則、価値を確立し、それを実践する」(ウェブページから)。そのため、プロジェクトはSJIを訪問することにしました。

ニュースレターのハイライト

SJIプログラムの目的と概要

ツアー全体概要

プロジェクトオフィサーからのメッセージ

農家さんからの体験・感想

受講生のコメントのエッセンスを抜粋
とスタッフ

プロジェクトメンバーの12月のハイライト
2022年月

イベント写真



画像:メンチャリ・コミュニティ・メンバーとSJI・メンバーとの交流



画像:牛の糞尿堆肥について学ぶことは、地域社会の優れたアグリビジネスに変わりました(メンチャリ)



画像:フィールドでの実際の学生の社会的学習



画像:オーガニック認定農家の農場を訪問



画像:プログラム・ディレクター、SJIとプログラム・オフィサー、SJI



画像:認定オーガニック農家を訪問(メンチャリ)



画像:廃棄物管理、ペットボトルを切って便利なものを作る方法学ぶ



ツアー全体概要

Khaling と Wamrong で少し立ち寄って食事を済ませた後、午後3時頃に Menchhari GNH Pilot Village に到着しました。

メンチャリの村人たちが待っていて、私たちが温かく迎えてくれました。ラカンでは、メンチャリ・プロジェクトの説明と村人との交流会が行われました。その後、村の有機農業実践者のところに移動し、農業による生計向上について意見交換を行いました。私たちにとって印象的な実現例の1つは、牛糞ビジネスでした。一部の村人は、農家有機肥料を生産し、それを販売して収入を得るための施設を建設しています。プログラム・ディレクターと村人は、人々が地元のアルコールを大量に飲んでいた状況から先駆者による有機農業と農業ビジネスのおかげで現在の状況に至るまでの、地元のユニークな開発の変遷の歴史について話してくれました。それはとても刺激的な話でした。

2日目は、地元の人々が実践している有機農業について、より深く学びました。SJIファミリーは、デワタンの Garpawoong と Bangtso にある彼らの若者主導のデモンストレーション・プロットといくつかのリード・ファーマーに私たちに案内してくれました。そこで出会った2人の農家さんは、有機堆肥や有機農業を熱心に生産していました。さらに、モロンの76歳の農夫とその妻への有機証明書の授与式に立ち会えたことは、すべての参加者にとって最も記憶に残る瞬間の1つであったことを光栄に思います。

農場訪問を終えた後は、デワタン・シェルダ近くのコミュニティ・シード・バンクを視察して、1日を締めくくりました。

3日目の目的地は、SJIが立ち上げたゼロ・ウェイスト・マネジメント・プロジェクトの地場産品のクラフトショップでした。地元の竹や木で作られた手作りの興味深いキッチン用品や廃棄物で作られた魅力的な手製のバッグがきれいに陳列されていました。それらは私たちの興味を引き、手に取るだけでなく、お土産用に購入もしました。

最後に、参加者の何人かは、ペットボトルを材料として利用するための加工を体験しました。農業用のテープやフェンス、ショッピングバッグなどの成形品を作る経験でした。

この機会を私たちの人生の重要な経験として与えてくれた方々に感謝しています。次回の共同活動を楽しみにしています。同様に、プロジェクト管理側のエラプツェ・カレッジ、ブータン王立大学、サムドゥップ・ジョンカル・イニシアティブの絶え間ないサポートと提携に感謝します。

プロジェクトオフィサーからのメッセージ: ペマ・チョーデン

SJI へのコミュニティ・エンゲージメント・スタディ ツアーは、バルツァムの農家がより良いグループ管理のための有機農業とコーポラティズムについて学ぶ機会を提供するために実施されました。シェラブツェの学生には、特に有機農業と起業家精神に関するフィールド・リサーチを実施するよう奨励する機会も与えられました。

3日間のプログラムでは、メンチャリのGNHモデル村、オロンとデワタンの農場を訪問し、有機肥料、液体肥料、生物農薬の準備を見学しました。私たちのチームもシード・バンクを訪問しました。

同様に、私たちは村人と交流し、彼らの知識と経験を私たちのチームと共有しました。

廃棄物管理の意識を高め、廃棄物のリサイクルに関するアイデアを得るために、廃棄物ゼロのアウトレットを見る機会が与えられました。カゴ編みやフェンシング用のペットボトルのカットの実演を見学しました。プログラム全体を通して、農家と学生が互いに交流し、知識と経験を共有し、助け合う様子を観察しました。農家と若者が交流し、お互いを理解できるようにすることは、私たちの目的の1つでした。

SJI、シェラブツェ・カレッジのスタッフによるサポートと参加者の協力により、プログラムは非常に成功し、興味深いものになりました。プロジェクトは、私たちの心からの感謝と謝意を表したいと思います。このプログラムが参加者全員に、将来の努力に刺激を与える知識とアイデアを与えてくれることを願っています。

今後も同様の協力と熱意を期待しています。



画像: 認定有機農家との交流



画像: メンチャリの認定オーガニック農場を訪問,
GNHパイロットビレッジ



画像: メンチャリ、GNHパイロットビレッジでのフィールドノート



ペマ・チョーデン

プロジェクト・オフィサー



農家さんからの体験・感想



画像: クロージング・セッション。フィードバックの共有

SJIスタディツアーは、参加者が多くの知識を得る教育的なツアーでした。私たちは彼らの活動やイニシアチブを観察し、学ぶ必要がありました。農業の概念は似ていますが、SJIの農業への取り組み方とアプローチは異なります。

まず、廃棄物管理について学びました。他のゲオグと同様に、バルツァムも廃棄物管理の問題に直面しています。廃棄物ゼロのアウトレットでの観察の後、廃棄物のリサイクル方法についていくつかのアイデアが浮かびました。

次に、牛の糞や尿から肥料を作る方法を学びました。バルツァムでは、牛の排泄物を肥料として使用してきましたが、SJIには、より効果的な肥料を作るさまざまな方法があります。

最後に、人々は野菜の栽培だけでなく、DRU NA GUのような穀物の栽培にも力を入れていることがわかりました。バルツァムの農民はかつては穀物栽培が中心でしたが、現在は DRU NA GU の少ない野菜に重点を置いています。スタディツアーからバルツァムに戻った後、私は再び9種類の土着の穀物 (DRU NA GU)の栽培を開始することに意欲的です。これがバルツァムの人々がソバ、キビ、オオムギ、マスタード、小麦などのDRU NA GUをコミュニティで栽培する文化を復活させる動機になることを願っています。



画像 :ミニ耕うん機の操作方法を学ぶ参加者、SJIデモンストレーション・ファーム



画像: Dungsam Community シード・バンク (Yangtshepa Ashom & Mo)



画像 :ゼロ・ウェイスト・アウトレットのローカル製品



ジャムヤン・プンツォ
(議長)

ハッピー・ファーマーズ・グループ
バルツァム



画像 :SJIによる液体農業の説明。SJI

このSJI ツアーは他の旅行とは少し異なっていました。違いは、ツアーの参加者がハッピー・ファーマーズ・グループのメンバーと一部の学生、そしてシェルブツェ・カレッジの講師で構成されていたことです。個人的には、この旅行に学生が参加したことが旅行のハイライトでした。Dewathang の農民から得た知識と学習に加えて、私は彼らの若い心から多くを学ぶことができ、私たちは本当に楽しいインタラクティブなセッションを行いました。私はそれらの若い心の深い考え方を知り、学ぶようになり、また私が知っていることを彼らに教えました。全体として、双方にとって有益な状況でした。

2



テンドレル・ザンモ
ハッピー・ファーマーズ・グループ
バルツァム



私たちの旅は、タシガンのバルツァムから始まり、サンドウップ・ジョンカルのデワタンまででした。Dewathang (Samdrup Jongkhar Initiative) へのスタディ ツアーに参加できてよかったです。ツアーは私にとってとても有益で刺激的でした。まず、Samdrup Jongkhar の人々の文化とライフスタイルを理解することができました。第二に、私たちが訪れた農家の農作業はとても刺激的でした。その知識を私の村に持ち帰り、学んだことを実践したいと思っています。竹製のカップとプラスチック廃棄物で作られたバスケットが私の目を引きました。それは非常にシンプルで、実行可能なものです。ペットボトルがフェンシングに使えるとは思いませんでした。ですから、今回のツアーで得た知識とアイデアを最大限に活用したいと思います。

3



テンジン・ブンツォ
ハッピー・ファーマーズ・グループ
バルツァム



コミュニティに関する学生・教職員のコメントのエッセンスを抜粋

Samdrup Jongkhar イニシアチブへのエンゲージメント スタディ ツアー

1

ツアー全体を通して、共有し、学ぶことがたくさんありました。すべてを面白くするために、参加者はさまざまなバックグラウンドを持っていました。日本の研究者との交流は、日本で実践されている農業へのさまざまなアプローチについて共有したため、有意義でした。バルツァムのハッピー・ファーマーズ・グループの参加者も同様に楽しく、フレンドリーでした。彼らの技術と持続可能な農業方法について学ぶのは楽しかったです。伝統的な農業と現代の農業に関する彼らの知識は豊富でした。彼らは、世界のさまざまな地域で物事がどのように実践されているかを知っているだけでなく、独自の伝統的で有機的な方法を維持しています。これは、農業従事者が公務員と同じくらい賢くなれるという希望を与え、国の農業の未来は明るくなりつつあります。



スダルジャン・アディカリ
学生

2

幸福は、私たちがどのように信じ、行動するかにかかっていることを学びました。例えば、メンチャリ村は開発が進んでいませんが、周りの人は幸せそうに見えました。彼らには店も良い家もありません。彼らには適切な農道が不足しています。しかし、彼らは自分がしていることや得たものに誇りを持っているので、皆幸せです。



ドムチェ・ドルジ
学生

3

午後、私たちはモロンに行って MC Gurung 氏を訪問し、彼の美しい有機農場を訪れました。彼の庭で採れた有機野菜を使って、彼の家族が作ったおいしいランチをいただきました。70代後半の男性が今も農作業をしている姿に感動しました。彼は私たちに農業に関する多くの知識を与えてくれました。



プニャ・プラサド
スタッフ

4

今までの私にとって「農家」という言葉はただの文字に過ぎず、周りの人が農家の話をすると、おじいさんやおばあさんが畑で働いていることしか頭に浮かびませんでした。

しかし、Dewothangを訪れた後、私の農業に対する見方は一変しました。

また、農地からわずか数キロ離れたところにある家にも行きました。男性が私たちに挨拶し、彼はすべての殺虫剤をゼロからどのように作ったかを親切にも教えてくれました。



ジャムヤン・ラムツォ
学生

5

有機農業という用語は、その定義に関しては論争に満ちていますが、それが生き方であることを学びました。人は物質的な成功を収めることはできないかもしれませんが、有機農家としてのキャリアを追求することでさえ、自分のしていることに誇りと幸せを感じることができることに気がきました。

...

DewathangのGupから話を聞く機会を与えられたことは光栄でした。彼女は私を鼓舞する人でした。彼女は優れたリーダーであり、強い女性であることがわかりました。物理学の学生として、私は政府および非政府組織がどのように機能するかについて多くのことを学びました。



オム・バハドゥル・モンガー
学生

6

私たちのツアーでは、主に有機農業について学び、最も重要なことは、私たちの国における農家の価値を理解したことでした。



ゲドップ・ツォモ
学生

7

メンチャリ村で私が最も惹かれたのは、そのきれいな環境でした。私にとって非常に面白かった大学のエリアとは異なり、投げ捨てられたプラスチック片は1つもありませんでした。ほとんどの人は読み書きができませんでしたが、彼らは廃棄物管理に最大の価値をおいています。突然、これは私の高校の先生が当時投稿した「あなたの教育のポイントは何か。あなたがまだ路上にゴミを捨てて、教育を受けていない人が最終的に拾うのであれば」という引用を思い出しました。これに気づき、プラスチック製品の使用を減らすことにしました。プラスチック製品よりも環境に配慮した製品を選択し、使い捨てのビニール袋をトートバッグに置き換えることで、多くのことを学びました。



テンジン・デキ
学生

8

驚いたことに、Samdrup Jongkhar でのスタディ ツアーは、都市で育ち、実際の村の農業生活を経験したことがなかったもので、非常に役に立ちました。また、私は農業や有機農業全体について多くの考えを持っていません。

SJIでのスタディー ツアーで最も興味深く、思い出に残る経験の1つは、Meymey MC Gurung と彼の妻の農場でした。最初は2人暮らしだったので小さな農地かと思っていたのですが、また見た目は古そうに見えたのですが、驚いたことに20デシメル近い土地でさまざまな野菜や果物が耕作されていて、感激しました。

ですから、全体として、彼らが私たちに丁寧に対応してくれたことに感謝し、正直なところ、去る時は非常に感情的になってしまいました。



ソナム・チョキ
スタッフ

9

3日間のフィールド・トリップで最も印象に残ったのは、メンチャリの訪問でした。メンチャリの人々はとても親切で、環境もきれいでした。ほとんどの人が自給自足農業に依存していたため、彼らは畑で一生懸命働き、有機農法を採用して生産物を増やすために最善を尽くしているのが見られました。メンチャリの労働人口のほとんどは、別のゾンカクに出かけていたため、メンチャリの高齢者は、農産物の生産とマーケティングの面で苦労していました。若者たちが自給自足農業にもっと関心を持ち、家族を助け、ブータンの農地を活用することは、起業家精神を高めるだけでなく、他国からの野菜の輸入を減らすにも役立つため、素晴らしいことです。



ウゲン・ツォモ
学生



2022年12月のプロジェクトメンバーのハイライト



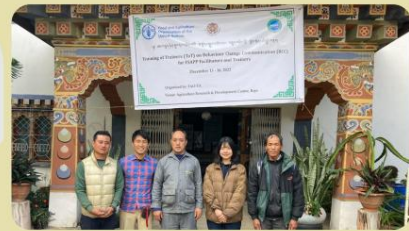
・生駒忠大

私たちはARDC Bajoを訪れ、協力農家とともに国で促進される高度な有機農業技術について学びました。



・安井里緒

12月の初めに、私は数人の HFG メンバーと一緒に Bajo ARDC を訪れました。訪問の目的は、木酢液の作り方を観察し、学ぶことでした。木酢液だけでなく、堆肥作りや土づくりなども楽しく学べました。また、バルツァムで開催されたキノアの脱穀とキノアの展示会に参加する機会もありました。とても印象的で面白かったです。



・ソナム・チョーデン・ツェリング

私と同僚 2 人は、12 月に 2 週間日本を訪れました。折り返し、タシガンで相場調査に行きました。ツアーレポートやインターンシッププログラム (1月)も担当しました。同様に、ニュースレターのいくつかの記事を編集しました。



・石内良季

12月のハイライトは、Meme Lobzang Yeshey との 2 回目のインタビューでした。また、コミュニティ・ツェチュに参加し、観察しました。



・ペマ・チョーデン

日本ツアーから帰国後、タシガン野菜市場に価格調査に行ってきました。また、ニュースレターの内容について、農家からのコメントの収集にも取り組みました。それとは別に、ツアーレポートとインターンシッププログラムにも取り組みました。



・アビ・チャンドラ・アチャリヤ

12月に、2人の同僚と私はほぼ2週間日本を訪れました。これは、ここブータン東部で進行中のプログラムをより適切に実施するためのプロジェクトの一環としての公式ツアーでした。ブータンに戻った後、ツアーレポートと次のインターンシッププログラムに取り組みました。



ご閲読ありがとうございました

幸福の谷

2022 第5版

JICA パートナースhip・プログラム
ブータン国東部タシガン県における大学－社会連携による地域づくりに関する人材育成開発支援

(デザイン：アビ・チャンドラ・アチャリヤ(AB PANDA) プロジェクト・オフィサー)

